

「頑張り方」を大切にする時代

最近、大変共感した CM があります。朝のバス車内で、乗り込む乗客を眺めながら「僕らは、頑張り過ぎなくていい時代に生きている」と心の中で呟き「がむしゃらなんて、古臭い」という声が頭をよぎる中、バスを慌てて飛び出して走り出した男性俳優が「頑張ったっていいだろ」と声を上げます。

「頑張らない時代」とは、従来のように「根性で頑張ること」が善とされる価値観が弱まり、「無理をしない、自分らしさや心地よさを重視する」生き方が広く受け入れられつつある現代の風潮を指す言い方のようです。

当然、時代が変われば求められる価値観も変わります。しかし、教育の世界では変わってはならないものもあります。

確かに、「頑張り過ぎなくていい」という考え方は、自分自身を大切にする上で大切な視点です。心や体を壊してまで無理をする必要はありません。一方で、子供たちは大人の姿勢を見ています。目標に向かって努力する姿、失敗しても立ち上がる姿、仲間と支え合いながら一歩ずつ前へ進む姿から多くのことを学びます。だから私は、「頑張らなくていい」ではなく「頑張り方を大切にする時代」に変化しているのだと思います。一人で抱え込んで頑張るのではなく、仲間に頼ったり、協力を求めたりすることも頑張りの一つです。自分の限界を知り、時には休むことも頑張りで。そして、目の前の子供のために、今日できることを一つ一つ積み重ねることも頑張りで。

特別支援教育では、一人ひとりの小さな成長を信じ、焦らず、諦めずに子供を支えていくことが何より大切です。その歩みは決して派手ではありません。しかし、子供たちの「できた」という笑顔に出会えたとき、その積み重ねが確かな意味をもっていたということを実感します。

「頑張ったっていいだろ。」この言葉は、無理をしようという意味ではなく、「誰かのために、自分が信じることをのために、一歩を踏み出す努力は決して古くない」というメッセージなのだと思います。

私たちも、子供たちに「頑張れ」と言うだけではなく、「一緒に頑張ろう」と寄り添える教職員集団でありたい。そして、互いに支え合いながら、子供たち一人ひとりの未来のために、一歩ずつ歩み続ける学校でありたいと思います。

